

# 知財

<特集10~11面>

食品業界で「知的財産権（以下知財権）」の重要性が高まっている」と言われるようになり、数年が経つ。中には、ビジネス戦略の一つとして知財権を活用し、市場での優位性を得る企業もあるが、依然として「難しい」「わからない」と足踏みする企業も多い。知財権はなぜ必要なのか、活用するとは具体的にどういうことか。知財特集では「知財権」を主軸に「機能性表示食品」「メーカーの取り組み」「検索技術の進化」「ITの進化」の4つの視点から知財権にかかわる現状を解説する。

## 知財権とITの進化

○：まもなく、5G通信をはじめ、2020年、さまざまな驚きとともにビジネスは着々とデジタル思考へと変わっていく。過度な期待で語られていたAIやIoTを中心としたITの活用は安定期を迎え、これからの10年で確実に社会に根付くとともに、その影響はあらゆる業界に及ぶだろう。

○：まもなく、5G通信をはじめ、2020年、さまざまな驚きとともにビジネスは着々とデジタル思考へと変わっていく。過度な期待で語られていたAIやIoTを中心としたITの活用は安定期を迎え、これからの10年で確実に社会に根付くとともに、その影響はあらゆる業界に及ぶだろう。

## 知財権は

人口減少が著しい日本においてIT技術の進展は不可欠だ。労働力不足解消で話題のRPA（P-Cの操作自動化）はすでに定着し、AIに継承する準備が進むことで、より自動化の幅は広がっていくことが考えられる。

## 「世界のデジタル化を示す地図」

人口減少が著しい日本においてIT技術の進展は不可欠だ。労働力不足解消で話題のRPA（P-Cの操作自動化）はすでに定着し、AIに継承する準備が進むことで、より自動化の幅は広がっていくことが考えられる。

をはじめとするアジアの目ざされてきている。

術が目立つ。ディープラーニングとは機械に答えを与えずに、「自ら学習する」といえる。言語では、AI翻訳の進化は確定的であり、今後、同時通訳まで進化するだろう。

特許出願数は全世界の半数を超え、その大きな要因がAIやIoTをはじめとする通信・コンピュータ技術分野の出願数（業）の割合は、アメリカ

人の目で判断する仕事がない。費用面などを鑑み、多くの可能性を持つ「AI」により、素早い対応を可能にする。しかし、ITの視点は必要のない目的であり、今後、同時通訳まで進化するだろう。

このほか、文字認識技術は、手書き文字をデジタル変換することができ、膨大な紙資料を検索容易にする。現状では、発する」ということでは、アイデアをビジネスとして成り立たせるためには、自社の事業をデ

### 三枝国際特許事務所

中小企業診断士 柚木 正人氏



このほか、文字認識技術は、手書き文字をデジタル変換することができ、膨大な紙資料を検索容易にする。現状では、発する」ということでは、アイデアをビジネスとして成り立たせるためには、自社の事業をデ